

令和2年度 特定非営利活動法人晃智会 事業計画書

令和2年5月24日

1. 総論

前年度の利用者数は目標に達し、地域需要として放課後デイサービス開所要望の声があり、ROHASの利用者数も定員も上限に達する見込みも出てきたこともあり、放課後デイサービスと2店舗目の生活介護事業所、加えて訪問看護事業の開設を検討していた。

しかしコロナウイルスの影響により順調に増えてきた利用者数の大幅な減少が想定され、先の見通しが立たない現状では、一転して経営上厳しい1年になると思われる。

これらの新規事業計画を展開するかは年度内の社会情勢に合わせて柔軟な対応をとっていくほかなく、現状の運営においても基本的な感染対策だけではなく、利用者やその関係者の不安を減らすことや業務改革、広報に力を入れる必要がある。一方で事業所職員の雇用、生活を守るために行政の助成など有効活用しつつ業務量調整も検討していく必要もありそうである。

2. 重点目標・業務計画

(1) 稼働計画

損益分岐点となる稼働率

⇒平均稼働率 60% (一日平均 12 人)

(2) 業務計画

①現状の施設運営を維持

②2店舗目の生活介護施設、放課後デイサービス事業、訪問看護事業の開設準備

(3) 業務改革

①業務のオンライン化

- ・会議や勉強会のオンライン化
- ・各種書類のオンライン化

②勤怠調整

- ・利用者数に合わせての休業制度の導入
- ・送迎体制改革 (直行直帰システム)

(4) 人員

- ・コロナウイルス終息まで休業制度を利用しつつ、人員の維持
人員基準 1.7:1 を維持
- ・将来を見据えた新卒の若い世代の受け入れ